

地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会  
平成 28 年度 第 4 回情報共有会合議事概要

1. 日時：平成 28 年 12 月 14 日（水）15:00～16:30

2. 場所：札幌第 1 合同庁舎 10 階共用第 1 会議室

3. 出席者 35 名

北海道開発局（5 名）、北海道運輸局、北海道地方環境事務所、陸上自衛隊北部方面  
総監部、北海道（3 名）、札幌市（4 名）、北海道立総合研究機構（2 名）、日本測量  
協会北海道支部、北海道測量設計業協会、北海道 GIS 技術研究会、建設コンサルタ  
ンツ協会北海道支部、北海道 GIS・GPS 研究会、日本写真測量学会北海道支部、Digital  
北海道研究会（3 名）、EnVision 環境保全事務所（2 名）、北海道大学、国土地理院  
（6 名）

4. 議事

- (1) GPS 首輪のデータ利用に向けての取り組みと課題
- (2) 電子国土基本図の更新と登山道調査について
- (3) 第 8 回地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会の概要報告
- (4) その他

5. 配付資料

- (1) 事務局
  - ・議事次第・出席者名簿
  - ・平成 28 年度第 3 回情報共有会合議事概要
- (2) 発表資料
  - ・GPS 首輪のデータ利用に向けての取り組みと課題（EnVision 環境保全事務所）
  - ・電子国土基本図の更新と登山道調査について（国土地理院北海道地方測量部）
  - ・第 8 回地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会の概要報告（国土地理院北  
海道地方測量部）
- (3) その他
  - ・「情報センターが運営開始」「当別にドローン練習場」新聞記事（Digital 北海道  
研究会）
  - ・NPO 法人全国 GIS 技術研究会パンフレット（北海道 GIS 技術研究会）
  - ・第 14 回北海道測量技術講演会ちらし（国土地理院北海道地方測量部）

6. 議事概要

今回の会合は、次の 3 課題の発表を行った。

- (1) EnVision 環境保全事務所より、GPS 首輪によるシカの行動把握と実施団体間での  
情報共有に向けた現状の説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。
  - ・GPS 首輪をつけた個体の調査からシカの総数が推定できるか。→総数の推定はで  
きない。
  - ・データベースの作成が個体数の調整にどう結びつくのか。→データベース作成に

あたって、目的を定めることはしていない。とりあえず、取得したデータを可視化することで、多くの人に見てもらい、考えてもらいたい。シカの行動パターンやルートがわかることから捕獲しやすい場所に出てくる時間帯などがわかり、効果的な捕獲がしやすくなる。

- ・事業者はどのような目的で調査を行うのか。→シカが食べている可能性がある希少植物の保護や保全区域の樹木の立ち枯れにつながる樹皮はぎの対策にもつながる可能性があることからそれまでわからなかったシカの行動を把握するため。牧草の刈り入れの直前に、牧草を食べてしまう、一般人の立ち入れない保護区域に逃げ込むなど、シカが学習能力を備えていることもわかってきた。
- ・事業者は情報共有のメリットを認識しているか。今のところ EnVision 環境保全事務所が情報共有のとりまとめをしているのか。→事業者に共有のメリット・デメリットを話すと理解はしてくれる。今のところ EnVision 環境保全事務所が間を取り持つ形になっている。EnVision は GPS 首輪データを所有する立場ではないので、そういった中間の立場の団体が進めていくとスムーズなのでは、と考えている。

(2) 国土地理院北海道地方測量部より、電子国土基本図の更新と登山道調査について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

- ・登山道や橋に変化があったときに座標のない CAD データでも提供すれば修正できるものか。→座標があればすぐに修正できるが、なければ現地に測りに行く必要がある。
- ・修正前の情報を内部データとして残しているか。→過去のデータも残している。公表については検討中である。
- ・植生のようなあまり修正されない情報も修正される場合もあることがわかった。どのような基準でどこを修正するのか。→(修正対象の地物の周囲において)情報があれば修正している。植生を修正する範囲は作業者による部分もある。
- ・登山道調査において、崖崩れでルートが変われば地図も修正されるが等高線は修正しないのか。→登山道調査においては、等高線までは修正していない。
- ・ハンディ GPS を使った登山道調査の精度管理について教えてほしい。→精度検証によりハンディ GPS の精度は 4m 以内という結果が出ており、25000 レベルの制限である 17.5m 以内に収まっている。裸地では精度も高いが植生のあるところではデータが飛ぶこともあり、複数台を使用している。また、安全管理の観点からも複数の職員で登山するようにしている。

(3) 事務局より、10月11日(火)に開催された第8回地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会の開催概要について報告が行われた。第9回に向けて、懇談会で取り上げてほしいテーマがあれば事務局に連絡するよう依頼があった。

## 7. その他

Digital 北海道研究会から新聞記事を用いて 11月22日(火)に行われた GIS Day in 北海道 2016 の報告と UAV の練習場や講習会の案内、北海道 GIS 技術研究会から全国 GIS 技術研究会のパンフレットの説明、国土地理院北海道地方測量部から第14回北海道測量技術講演会の案内がそれぞれ行われた。第5回情報共有会合は2月頃を予定。